

平成29年度岩手県教員等育成協議会（第1回）会議概要

（開催日時）平成29年7月12日（水）10：00～12：00

（開催場所）サンセール盛岡

○概要**1 教員等としての資質の向上に関する指標の策定の方向性について****（1）方向性が確認された事項****ア 指標作成に当たっての基本的枠組み**

- ・ 「教職員の人材育成に関する検討委員会報告（平成17年3月）」（以下「報告」という。）を基本として、文部科学省の定めた「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指針」や岩手の教育の特徴に関する視点などを踏まえ、指標を検討する。
- ・ 指標にはライフステージを設け、「報告」の例を基本とする。
- ・ 指標は、岩手の教員に求められる資質の視点から、全校種に共通する大きな枠組みで設ける。
- ・ 指標は、すべての教員が、その時点で自らに求められる必要なものが分かるように、また、普遍性があり、将来を見通せるように作成することでモチベーション向上につながると良い。
そのため、抽象度があまり高くなく、ある程度、具体的であることも必要。

イ 求められる資質、能力の視点

- ・ 家庭・地域・関係機関との連携などに必要な人間性やコミュニケーション力が明確に示されることが必要。
- ・ インクルーシブ教育や、岩手らしさを示すもの、例えば、いわて型コミュニティスクールや復興教育などにも触れることが必要。
- ・ 個の力量だけではなく、「チーム学校」として組織力を発揮するためにどのような力を身につけていくべきか分かるようにすべき。

ウ 指標の表現

- ・ 分かりやすく、シンプルでポイントを絞ってあることが必要。不足する点は解説をつけるなども検討すべき。

エ 養護教諭、栄養教諭の指標

教諭の指標の検討を参考に、養護教諭、栄養教諭の指標について定める。

（2）検討が必要な事項**ア 校長・副校長の指標**

校長・副校長にはマネジメント力を始め、一般の教員とは違う専門的能力が必要で、管理職試験もあり、別に作成する必要があるとの意見の一方、校長として求められる資質を若いうちから身に付けていく、また、校長等が自己評価するのに他の教員と併せて示す意味もあるとの意見もあり、作成の枠組みについて別途検討が必要。

イ 求められる資質、能力の視点

- ・ 「人としての強さ」をどう考えていくのか、慎重に検討すべきとの意見。
- ・ 「生徒指導、生活指導」の文言の使い分けは、現在一般的ではなく、「生徒指導」とし一本化できないか検討。
- ・ 30代教員による若手教員の育成は、小中学校ではあるかもしれないが、高校では厳しい。高校では「若手の中のリーダー的な役割」の方が適切。

2 今後の協議会の運営について（予定）

第2回の会議は9月中旬の開催（予定）とする。